

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第110回「乱高下する日経平均株価 今後の見方」

2月28日に突如として始まった米国・イスラエル合同軍による対イラン軍事作戦によって、日経平均株価をはじめとする世界の株式市場は大きく乱高下する状況が続いています。乱高下する株式市場の見方について私の考え方をお伝えします。

～想定外のことが起こった時の株式市況の動き～

今回のように何の前触れもなく戦争が始まると、企業活動にどのような影響が及ぶのかが分からず、株式市況は大きく値下がりします。今回も急落する場面が何度もあり、先行きに対する不透明感が強いので、株式投資に消極的になったり、株式市況を見なくなる方が多くいらっしゃいます。この先どこまで下がるのかわからず、恐怖心ばかりが先に立つからです。しかし、株式市場全体が下がっている時こそ、投資機会が訪れていると思います。

私は突如として起こった急落場面ではお祭りの屋台で売られている「スーパーボール」の動きを思い浮かべます。「スーパーボール」は反発力が強いので、高いところから落とすと最初は高く跳ね返りますが、そのうち徐々に跳ね返り方が小さくなりやがては止まります。この動きと同じように、想定外の状況が起こった時の株式市場の動きは、最初大きく値下がりしますが、売られ過ぎたと考える投資家が買いを入れ一旦株価は戻ります。その後新たな悪影響が想定され株価は下がり、再び下がり過ぎたと判断した投資家が買いを入れ株価は上昇するということを繰り返します。やがて時間を経て悪影響の度合いが分かり始め、企業業績への影響が想定できるようになれば株価は安定し始めます。

～日経平均株価の動き～

では、日経平均株価の動きを見てみましょう。グラフ1をご覧ください。このグラフは、2020年1月から2026年4月10日までの日経平均株価（週次）の推移を示したグラフです。このグラフの赤い破線で示したところをご覧ください。

まず、2022年1月から2023年1月の期間のところですが、2022年2月にロシアはウクライナに侵攻しました。現在まで続いているロシア・ウクライナ戦争ですが、この時も原油価格が急騰しました。また、米国で物価高騰に対処するため政策金利の引き上げが始まった時期でもありました。この時の日経平均株価の動きをみると、2022年3月には終値ベースで25,162円まで値下がりしますが、その後は25,000円～29,000円程度の間を上がったり下がったりしています。ロシア・ウクライナ戦争の先行きや米国の政策金利の落ち着き所を探る展開となり、「スーパーボール」の上下運動と似た動きとなりました。

次に2つ目の赤い破線で囲まれたところをご覧ください。この期間、2023年10月に30,900円台の同じ水準で下げ止まり、その後株価は上昇を始めました。このように同じ水準で2度下げ止まることを「ダブルボトム」といい、その値段が下値と意識され、株価が反転上昇するきっかけとなります。

～今後の日経平均株価動向は？～

では、今後の日経平均株について考えてみましょう。今回のイランに対する軍事作戦で日経平均株価は、3月31日には51,063円まで値下がりし、3月の1ヵ月間で-13.2%の下落となりました。4月に入り米国とイランの停戦交渉が始まりましたが、双方の主張がかみ合わず交渉は決裂、トランプ大統領は即座にホルムズ海峡の米国による封鎖を宣言しました。イランに経済的な圧力をかけ、再交渉を促す動きに出ています。この動きによってホルムズ海峡を通過することは困難となり、原油や石油製品の物流が滞り日本やアジアへの経済的な影響は大きくなると考えられます。そのため、今月下旬から始まる3月期決算企業の業績予想は慎重な予想となり、再び株価は軟調な動きになると想定しています。この再度の下落の際に、3月31日に付けた51,000円近辺で下げ止まれば、「ダブルボトム」が形成され悪影響がかなり織り込まれたと判断できます。

決算発表の集中する今月下旬から来月にかけて株価が下げ止まることを期待するとともに、この調整期間に悪材料出尽くし後に上昇する銘柄を発掘、投資する一つの機会になると考えています。

今後も、世界は不確実な状況が継続し、株式市場は価格変動の激しい状況が続くと思われませんが、その都度、投資環境などを把握し皆様へ発信していく所存です。

